



「新型 (Novel) コロナウイルス (Coronavirus) の 真相を知ればすべてがわかる」!

、、は「小冊子」Vol.115 の第一章の副題である。

「この世に偶然はない」し、「不思議なことには裏(真実)がある」。

「偶然」は後になれば「必然」になり、「不思議」は見方を変えれば「な一るほど」と納得出来る。

武漢(中国)の海鮮市場での遺伝子組換え新型コロナウイルス(Covid-19)発症には「並々ならぬ裏(真実)」がある。

2018年と2019年に中国、アメリカをはじめ日本と世界中でインフルエンザが流行したが、初期段階でどの国も感染者の拡大防止よりむしろ病院検査能力を高めて出来る限りの感染者診察数増大に努め、決して Social Distance(社会・経済活動停止)を発動することはなかった。

人間には生まれつき体内に侵入してくる「抗原」(ウイルスなど病原体)に対抗して、ウイルスの蛋白質と人体細胞の蛋白質を合体して体外に排除しようとする「抗体」が存在する。(抗体はいわば病原菌と戦う戦士である)

発熱は抗体が抗原と戦っている証であり、発熱後熱が下がることは抗体が抗原に勝ち免疫体になった証であって他人に感染しないし、感染している者からの二次感染もない。熱が止まらないのは抗体が苦戦している証なので入院して抗原を弱める措置を施し、抗体が勝てば退院し免疫体になる。持病などで抗体(抵抗力)が著しく弱い体は死に至る場合があるが、極めて稀である。

アメリカでは2019年の悪質インフルエンザで1日150名も死んでいたが、時間と共に抗体が勝って免疫体になった体と入院・退院で免疫体になった体の数が増え続け年後半にはインフルエンザは終息した。アメリカで Covid-19 が発症した本年1月、感染力はインフルエンザ以下だと分かっていたのに何故アメリカのみならず(日本を除く)ほとんどの国は社会・経済活動停止を伴う密閉、密集、密接禁止(Social Distance)を強行しているのだろうか。

それは「権威ある細菌研究者」が「Social Distance 以外に Covid-19 から人間を救うことは出来ない」と主張し、マスクが同調し Stay Home Order(外出禁止令)を呼びかけ続けているからである。

では「権威ある細菌学者」とは誰か。

第一は遺伝子組換えで細菌兵器としての Covid-19 を造った学者で、広島、長崎の原爆投下同様武漢で新型コロナ細菌兵器の実験を行った学者。第二は Covid-19 が人工細菌であることは分かっているが何の為に知らない学者(日本に多い)。第三は Covid-19 の異質な遺伝子組合せは突然変異で人工ではないと主張して結果的に第一の学者を擁護している学者。

いずれの学者も、たとえ遺伝子組換えの細菌であっても人体の抗体は抗原に勝つことが出来ることを知っている(現にほとんどの Covid-19 の入院患者は退院して免疫体になっている)のに何故 Social Distance を主張したのか。

それは、野心家細菌学者が、自分たちの資金源であり、かつ又 WHO(国際保健機構)にとって「神様の存在」である人物の「意向」に従ったからである。

2019年の真珠湾攻撃の記念日12月8日に行われた武漢細菌実験の結果コロナ細菌兵器が核兵器に代わり得ることが「(キリスト)復活祭」(4月)の時点で分かったのでアメリカの細菌学者は Antibody Test(抗体実験)を5月に行うことによって Covid-19 細菌兵器実験は終了する。

Social Distance を解けば、一時感染者数は増えるが免疫体が急増し、やがて Covid-19 は終息する。トランプは世界の地殻変動を策する「力」にまだ気が付いていないが、リモートコントロールされている。

ここで「小冊子」Vol.115 は「ものすごい本」であることを強調しておきたい。